

編集室から

記録的な暖冬だったため、今年の桜の開花・満開は、全国的にいつもより早目となっているようです。毎年恒例となっている観桜期の兼六園ライトアップと無料開放を楽しみにしていますが、一方で、新型コロナウイルスの爆発的感染拡大によって、不要不急の外出自粛要請もあり、見送らざるを得ない状況です。

米国に嫁ぎ、NYで救急救命医として最前線で奮闘されている方のFacebook記事が数万件の拡散をされています。人工呼吸器・酸素吸入器などが不足しつつあるそうで、一台の機器に対して、急を要する患者が複数居た場合にどう対処すべきか、厳しいシナリオを想定してのシミュレーションも行っているそうです。

一台しかない機器を一人の患者に装着させることは、その方の命を救うことにつながりますが、選択されなかった側の患者は、自力で回復する道しか残されないということになります。医師としては、相当厳しい選択を強いられている局面。それが医療崩壊といわれる状況の一つかと思えます。救命の現場をそのような窮地に陥らせないためには、何よりも重篤となる方の発生を抑えるしかありません。そのために私たちは、何かできるのでしょうか。

今回の困難さは、井垣さんも触れられていますが、感染しても無症状・無自覚の方が相当数居て、彼らが無意識に菌を拡散してしまう無症状キャリア（保菌拡散者）となってしまうことに拠ります。

「誰が感染しているのか」と、犯人探しをしている自分自身が保菌拡散者になっているかもしれない危険性を想い、感染を拡げないよう・重篤になり易い方に万が一でも移さないよう、慎重な判断と行動が求められています。

一人ひとりの選択と行動が積み重なった結果が社会現象となるのですから。（は）



のと
だらぼち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川畠さんが「能登だらぼち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち
03-5537-3078
17:00～23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27
プラザ銀座ビル地下1階
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2020/04
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>
〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp

2020/04
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

卯 月



金沢市もりの里にて
by hama

新型コロナウイルスは、鉛色の雲のように重く日本中に垂れこめています。東京オリンピックも、もう厳しそうです。感染は世界的に拡大する一方ですが、その中でウイルスに対する情報が蓄積し認識も深まってきました。それらをふまえて三月十一日に、日本プライマリ・ケア連合学会から『新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 診療所・病院のプライマリ・ケア初期診療の手引き』(以下、『手引き』と略)が公開されました。医療者向けですが、一般の方にも判りやすく有益な内容の多い意欲作です。学会のホームページから、誰でも見る事ができます。その紹介をしながら、第二弾として三月二十二日時点の情報をまとめてみました。

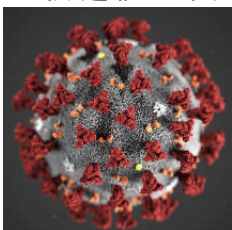
一、症状の特徴は? 『手引き』五・六ページ

感染の初期には、症状で通常の感冒と区別することは出来ません。全く無症状の人もいます。約一週間で、八割は自然に治癒します。残る二割は肺炎になります。その中に、高齢者や基礎疾患を持つ方が多いのはご存知の通りです。肺炎像の多くは、レントゲン検査では判らずCTを撮って初めて捉えられる淡いすりガラス陰影です。この時点でも、重症になる人の割合は高くありません。しかし感染者の数が増えれば、割合は低くても、重症者の数は増えてしまいます。

二、何故こんな大流行になったのか? 『手引き』八・十・十一頁

ひとえに、ウイルスの毒性が弱い為です。軽い感冒様症状もしくは全く無症状の感染者が、自分では気がつかないままウイルスを拡散してしまいます。毒性は弱いのに、感染が長引くと肺炎を起します。前

回お話しした、肺細胞に吸着するスパイク蛋白を持つているからです。肺炎は、高齢者や一部の持病がある人にとっては致命的です。また、後の検証は必要ですが、各国の医療体制に問題があったのかもしれない。PCR検査で陽性だった軽症者をまず隔離したため、後から重症になった人達のベッドが不足してしまったという指摘がなされています。



三、PCR検査について 『手引き』二十四頁

診断を確定できる唯一の手段は、PCR検査です。PCR陽性ならば、感染者と診断できます。これを特異度と言いますが、九十九%以上の正確さです。しかし問題は、陰性と判断された人に感染者が紛れ込んでいる点です。これが検査の感度で、二十〜七十%程度と言われています。これが、感染拡大を抑えきれない一因になっています。

四、終息の予測と山中伸弥先生のホームページ

今回の感染拡大は、特効薬がワクチンが出来るまで終息は難しいように思われます。それほど厄介なウイルスです。薬剤とワクチンには安全性の証明が必要で、それには時間がかかります。そこで、私たちは粘らなければなりません。そんな中、iPS細胞の山中先生がコロナ関連のHPを開設されました。良識の人が何を発信されるのか、注目したいと思います。「COVID-19-yamanaka」で検索してみてください。



【プロフィール】
いがき としお(金沢大学北浜寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とつても怖かった…。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松でスクスクしています。)

濱の起業塾 十一 『試行』

前月号では、「実施しようとしている試行で検証すべき事項」を、ビジョンに照らして大義・大目標として明確にしておく重要性について触れた。

もう少し例示的に言えば、地域資源を活用してお菓子などの特産品を開発しようという現場で、次のような違いを産む。一方は、特産品を作り出すことのみ意識が向いている場合。もう一方は、特産品の開発・販売を通じて地域に外貨獲得可能な事業を興し、それを産業に育てて行こうと目論む意識で望んでいる場合である。

前者は、試行結果が芳しくなければ比較的容易に諦められてしまう現場であり、地元の事業所では対応不能と判断されれば、簡単に地域外の事業者に外部委託することも検討材料に入れられてしまっただろう。それをしてみようと、地域資源を素材として安売りしてしまうだけで、地域経済を回すことにはならないが、「特産品の開発」は成功したように見せる事ができてしまう。

後者は、特産品を開発・製造するのは、何としても地元の事業所で行わなければならない。素材の生産・加工賃・販売利益がすべて地域内に還元されるからだ。従って、多少の困難があっても地域外に学びに行く機会を設けたり、地域で知恵を出し合って試行の度に完成度を上げ

ようと努力が積み重なる。

重要なのは、最終的な目的・ビジョンが何であるかであって、特産品開発はそれを実現させるための手法の一つに過ぎないということである。こんなことは重々承知しているはずだが、えてしてさまざまな事象に振り回される現場では、大儀を忘れた意見が登場する。現場でラクを選択すると、それが積み重なった「結果」の中に、大儀は失われている。

さて、試行で検証すべき事項は、もう一つある。それは、実行段階でのノウハウの蓄積、すなわち予想外に起きることと、それらに対する確な対処法を身に付けることである。エジソンの例を引くまでもなく、対処困難に思える事象への取組は、大儀を見失っていないければ、それ自体、障害ではなく、知恵を授けてくれる有難い問題・宿題にすぎない。

先の例であれば、試作品の見た目・味・食感・生産の容易さ・日持ちなどの課題の解決になるし、自然体験メニューの開発ならば、安全な運営方法と面白さのバランス、危険の発見・予測と対処法などとなってくる。

試行とは、「ビジョン・大儀を実現することが可能な着想であることの実証」であるとともに、「後にノウハウとなつて地元に残される、さまざま問題と対処法の数々を、事前に積上げておくことである」とも言える。

今回は、櫛引素夫著『新幹線は地域をどう変えるのか』（2020年2月10日、古今書院、2,200円（税別））について述べてみたい。筆者（青森大学教授）は青森県の地方紙である東奥日報社に在職し、八戸支社にて2000年から東北新幹線八戸開業の問題を担当され、以来、新幹線と地域振興をテーマに各地の整備新幹線等を対象にこれまで20年間に渡り精力的、持続的に研究されている地理学者であり、本書は2020年春までの研究報告ともいえる。

目次

- 第1章 「新幹線」のあゆみ
- 第2章 新幹線をめぐる議論と混迷
- 第3章 未来に向けて

本書の特色は著者も述べているが「筆者が直接、見聞きし、あるいは確認できた事柄をベースとした、ジャーナリスティックな視点、あるいは実務者の視点からの記述と提起」を行っている。

第1の特徴は「現場から立ち上がった視点と問題意識」、第2の特徴はその記述の方法であり、第2章ではテーマやエピソードを選び、「論点」の整理と「仮説」の提示、読者への「問いかけ」を通じた、「対話」形式の記述を試みている。第3の特徴は執筆プロセスに関することである。Facebookでの友人・知人に呼びかけ「グループ」を作成し、「特定多数の人々の協力による集合知の活用」という新たな試みを行った。新幹線の構想の経緯や詳細なデータはすでに多くの書籍や資料が刊行されているため、それらをベースとしつつも、これまであまり触れられてこなかった話題や視点を主に記述している。第1章の『「新幹線」のあゆみ』は整備新幹線の概要の記載ではなく、筆者がフィールドワークして見聞きした内容を中心に記載されている。この章のなかで「長野新幹線」「北陸新幹線」に関しては、筆者の人的ネットワーク等による地元の動きや声を拾い上げている。

本書には「フォーラム 新幹線学」と掲げられている。「新幹線学」は今のところ、学問体系も中身や目次も決まったものはないが、新幹線という「テーマ」を起点として、みんなで構築していけないかという筆者の実験的な試みでもある。なお、本書を購読するにあたり、筆者による東洋経済オンライン連載「新幹線はどう街を変えるのか」（2015年～連載中）を合わせて読まれることと、特に北陸地方の読者の方々には、2015年の金沢開業の影響分析に加え、福井、敦賀への延伸、将来（2046年？）の大阪開業に向けタイムリーな本であり一読をお勧めしたい。新幹線と地域振興の問題は、まだまだ先が長いテーマになるであろうが、今後、北海道新幹線、九州新幹線・西九州（長崎ルート）の開業も控えることもあり「新幹線学」は徐々に形づくられていくのではないかと。

相変わらずというか、もしかすると今が猛威の始まりなのかも思ってしまう位に人命や日本経済に負の影響を与えはじめた新型コロナウィルス。先日東京オリンピックも延期が決定され、東京では都市封鎖までも現実味を帯びてきた状況であります。そんな中私たち飲食業界でもささやかれているのが個人店の大量閉鎖です。個性と魅力ある個人店が街からいなくなってしまうぬよう、どんな救済策が現状用意されているのか私自身の勉強のためにも、今回はまとめさせていただきました。

(1)新型コロナウイルス感染症特別貸付

新型コロナウイルス感染症の影響により一時的な業況悪化を来しており、次のまたはのいずれかに該当し、かつ中長期的に業況が回復し発展することが見込まれる事業者が対象。

最近1ヵ月の売上が前年または前々年の同期と比較して5%以上減少している方
業歴3ヵ月以上1年1ヵ月未満の場合は、最近1ヵ月の売上が次のいずれかと比較して5%以上減少している方〔過去3ヵ月（最近1ヵ月を含みます。）の平均売上高、令和元年12月の売上高、令和元年10月から12月の平均売上高〕

融資限度額 別枠で6,000万円。基準利率 3,000万円を限度として融資後3年目までは基準利率-0.9%、4年目以降は基準利率

(2)セーフティーネット保証4号の認定

自然災害等の突発的事由により経営の安定に支障を生じている中小企業者への資金供給の円滑化を図るため、災害救助法が適用された場合及び都道府県から要請があり、国として指定する必要があると認める場合に、信用保証協会が通常の保証限度額とは別枠で借入債務の100%を保証する制度。対象は災害を起因として直近1ヵ月の売上が前年同月比に対して20%以上減少した1年以上継続して事業を行っている事業者。

これを取る事で様々な自治体の支援策を選ぶことができます。例えば私の会社がある品川区では

経営変化対策資金：斡旋限度額500万円で返済期間5年間。3年間無利子、4年目以降は0.2%。
経営支援資金：斡旋限度額1,500万円で返済期間7年間。3年間無利子、4年目以降は0.2%。
経営安定化資金：斡旋限度額3,000万円で返済期間10年間。利率は0.6%以内。

これらは結局借金をして危機を乗り越えてねということですね。これら制度の問題点は創業から間もない人にとっては認定が難しい制度である事かもしれません。創業して3年以内の飲食店は初期投資すら返済できていないケースが大半で、雪だるま式に借入れが増えていく一方、

- ・消費の回復の見通しができない
- ・もしくはその事業性自体の評価がまだできていない。つまりその事業が儲かるものなのか？がまだ見えていない中では、結果として破産のリスクが高まる可能性も出てきます。

毎週のように新たな支援制度が打ち出されるようですが、自分の事業にとって何のためにいくら必要なのか？という目利きが必要となります。私も、今後の成長のための資金に使うのか？それとも一旦縮小をさせてスリム化を目指すのかという大きな決断を迫られております。

『富士の国から ~大魔神のたび~』群馬県への旅 2020.3.7~8
静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

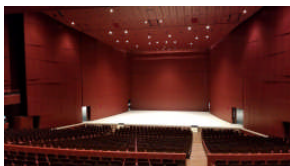
新型コロナウイルスのせいで、イベント、集まりが次々と中止に追い込まれる。これでは、自分自らがお楽しみをつくるしかない、思いを巡らしていたところ、由布院いた時に通っていた熊本県小国町でのツーリズム大学で出会い、付き合いの続いていた当時大学生、今は介護関係の仕事に就く小貝君のことが気になっていた。今は群馬県に住んでいることは年賀状を見て知っていた。加えて、群馬県には県庁職員の松本さんがいる。ならば、群馬県に行くしかない。

富岡製糸場、草津温泉以外は行ったことが無い。以前、県庁舎が県民のデートの場と紹介され興味を持っていた。今回は前橋市、高崎市の都市観光と伊香保温泉に泊ってみたい。グーグルマップで調べると高崎市まで小山町の我が家から車でなら2時間半で行ける、浜松に帰る程の時間だ。早速、松本さんと小貝君に都合を尋ねると、構ってもらえることが判明。一人で行くのもなぁと思っていたところに、近所にまちづくりに興味を持ち小生の話聞きたくて言ってくれている池谷君のことが頭に浮かび、誘ってみると「是非、ご一緒させてください」と言う。



まずは、松本さんの勤め先の高崎芸術劇場へ向かう。10:30頃に着くと伝えていた通りの時刻に到着、何せ高速道路の交通量が少ない。

待っていてくれた松本さんから渡された名刺を見ると「公益財団法人 群馬交響楽団」事務局長と書かれていた。県から出向という訳だ。高崎芸術劇場は市の施設だから、群響は間借りしている。施設の案内は、市の方がしてくれた。コンサートは新型コロナのせいで全て中止となっている。事務所には土曜日に関わらず、職員の方が結構出ている。中止に伴う、払い戻し等の作業は辛い。



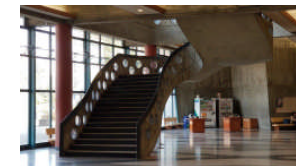
建物は全面カーテンウォールの外観の軽快さと中の開放的な明るさがいい。2,027席の大劇場は内部が渋い朱色で、中に入った瞬間気分が高揚する。ここはホールよりも、むしろ、リハーサルやレッスン

のための9つのスタジオがあるのがいい。「鑑賞と創造」が一体化した複合的な芸術劇場ですというのがウリだ。

高崎には何もないからと松本さんは言ったが、ネットで調べるとナンノ何の、昭和36年建築のアントニン・レイモンド設計の群馬音楽センターがある。建築を学んだものなら一度は目にしたことがあるのではないだろうか。折り紙のような構造で無柱空間をつくっている。



建設費の1/3が市民の寄附であること、昭和36年と言う早い時期に音楽ホールを造ったことは昭和20年11月、戦後間もない荒廃の中で復興を目指した「高崎市民オーケストラ」が創設され、翌年に「群馬交響楽団」となり、それが受け継がれている市民の文化性の高さがあってのことと思わざるを得ない。



驚くことに、隣接して同じくアントニン・レイモンドの設計による群馬シンフォニーホールが、道を挟んだ向かい側には高崎シティーギャラリーがあり、ここにも市民ホールがある。楽器を持って歩く姿がここではよく目にするとは松本さん談。人口37万人の高崎市が徒歩圏内に4つの音楽ホール、更にスタジオを持ち、「鑑賞と創造」が形になっていることにただただ感心した。小生の家のある浜松市も我が家から徒歩圏内にアクトシティーの大ホール、中ホールに、楽器博物館まであるが、「鑑賞」を主としたものだ。



世界では、文化を「都市が変化するための触媒」としたまちづくりが進んでいる。最近では衰退した工業都市ビルバオに誕生したグッゲンハイム美術館により世界中から観光客が集まり、これにより地区全体の整備が進んだ話が有名だ。

今、小生が住む小山町の小山地区は富士紡の撤退により衰退が特に目立つ地区だ。ここにある富士紡の遺産である豊門会館と西洋館を持つ豊門公園と森村橋を蘇生することが小生の仕事で、4年かけて価値がほぼ整った。明治から昭和初期の遺産を世界とまではいかないけど、国内ならば胸張って自慢できる姿に整えた。これが町を変える触媒となっていくことを願ってやまない。(つづく)